

道 徳 指 導 案

日 時 平成28年2月16日(火) 3校時
児 童 3年生
授業者
場 所

1 主題名 「誠実な心で」 【A 正直, 誠実】

2 資料名 「ガラスの心」(学研)

3 主題設定の理由

(1) 主題・資料

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 中学年 A正直, 誠実『過ちは素直に改め, 正直に明るい心で生活すること。』

この段階においては、特に他者に対してうそを言ったりごまかしをしたりしないことに加えて、そのことが自分自身をも偽ることにつながることに気付かせることが求められる。その上で、正直であることの快適さを自覚できるようにすることが大切である。さらに、過ちを犯したときには素直に反省し、そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育むことも求められる。このことは、たとえ仲の良い仲間集団の中にあっても、周囲に安易に流されない強い心を養う要ともなる。

指導に当たっては、正直であるからこそ、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し、この段階の活動的な特徴を生かしながら、児童それぞれが元気に生活できるようにしていくことが望まれる。

内容項目【A 正直, 誠実】は、本校においては3年生で2回、4年生で2回、計4回の設定となっている(低学年は6回、高学年は2回の設定)。6年間で12回設定していることから、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導をしていく必要がある(本時は8回目に当たる)。

今回扱う資料は『ガラスの心』(学研)である。資料は3人のエピソードと語り手の投げかけで構成されている。概略は以下のようになっている。

- ①あきらのエピソード
 - ・長縄跳びの記録にみんなで挑戦している。
 - ・あきらが引っかかってしまい、責められたり、励まされたりする。
 - ・あきは「はじめから長縄なんかしたくなかった、もうやめた。」と思う。
- ②としこのエピソード
 - ・廊下を歩いていたとしこさんに、廊下で遊んでいた男の子がぶつかり、その勢いでとしこはガラスを割ってしまう。
 - ・みんなにとしこのせいにされるが、としこは何も言えず黙っている。
 - ・としこは「もう嫌だ、学校なんか来ない。」と思う。
- ③さとしのエピソード
 - ・さとしは、体育の時間のゲームの最中、パスが回ってこなかったことに腹を立ててしまう。
 - ・友達は、敵に囲まれていたからパスを回せなかったと言う。
 - ・さとしは「こんなチームで試合なんかやりたくないよ。」と言って地面に座りこむ。
- ④語り手
 - ・3人のような出来事(腹を立てたり、投げやりになったりすること)がないかどうかの投げかけ
 - ・人間理解(人間だから腹が立つこと、自信がなくなること)を促す投げかけ
 - ・価値理解(ささいなことでも大事なことを捨てていいのか、ガラスの心では寂しい、何が必要なか、どんな心大切なのか)を促す投げかけ

本資料は、3人の人物(あきら、としこ、さとし)がそれぞれの出来事を通して、投げやりになったり、腹を立てたりしている様子が描かれている。また、語り手が3人のエピソードを受け、人間理解・価値理解・自己理解を促す投げかけを行っていることも大きな特徴だといえる。また、題名である『ガラスの心』というフレーズ自体、抽象的で曖昧な表現であることや、3人のおかれた状況が微妙に違うことから、語り手の投げかけとともに児童にとって明快な解(『ガラスの心』とは?大切な心とは?等)を安易に求めにくいものとなっている。

(2) 一般的な発達段階(3年生)

9 歳 の 壁: 具体的に目で見て理解できる学習から、抽象的な思考や論理的な思考を必要とする学習へと進む際、つまづく子が増えること

ギャングエイジ: 親や大人の干渉から離れて、自分たちで、友達同士の子供社会を形成しはじめる時期。決まった仲間でグループになって遊んだり、自分たちだけのルールを作るなど閉鎖性が高くなる。

具体的操作期: この時期(6, 7歳~11, 12歳)の子どもは、獲得された知識を相互に関連付け、統合された形で記憶する。そして問題解決の際にはそれらの知識を利用しながらものごとを多面的・総合的に捉え、組織的・理論的な思考を用いて対処できるようになる。これを脱中心化という。しかし、そうした理論的な思考ができるのは、この時期においては具体的な事物や状況に限られる(具体的操作)。この時期には保存の概念も獲得される。

主観的役割取得: (5~9歳)与えられた情報や状況が違ふと、それぞれ違った感情を人は持ったり、異なった考え方をもったりすることは理解できるが、他の人の立場に立って考えることはできない。

自己内省的役割取得: (7~12歳)自己の考えや感情を内省できる。他の人が自分の思考や感情をどう思っているのかを予測できる。他者の見方を一つ一つ整合することはできるが、それらを同時に関連付けて抽象するまでにはいたっていない。

相互的役割取得: (10~15歳)第三者の視点を想定できる。人間は互いに互いの考えや感情を考慮して行動していることに気付く。

4 研究とのかかわり

導入	<p>I 導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示</p> <p>【テーマ&空所の提示】 提示：資料の題名『ガラスの心』のみ 発問：『ガラスの心』とはどんな心だと思いますか？ ※II, IIIと関連</p> <p>【資料提示の工夫】 視点：3名の出来事から、『ガラスの心』を探す。 提示：3名の出来事をそれぞれ1枚ずつ提示。 ※3枚の中から選択したり、3枚を机上で操作したりできるようにする。</p>	<p>I・II・III-(1)立場や立ち位置を明確にする指導過程</p> <p>【ペア交流】</p> <p>⑦アイスブレイクの役割</p> <p>①自分の現状（深く考えたことがない or 何のことか想像もできない等）への気付き</p>
	<p>目指す姿①：資料や主題への興味・関心をもつ子供</p>	
展開前半	<p>II 中心発問（補助発問）の吟味</p> <p>【基本発問（中心発問への補助的発問）】 発問：3人の中で「わかるなあ」と思う人はいませんか？なぜですか？ ※状況に応じ、一番許せない人は？を問う。</p> <p>【基本発問（中心発問への補助的発問）】 発問：3人の中にある『ガラスの心』とは、どのような心だと思いますか？</p> <p>【中心発問】 発問：3人にはどのような心が必要ですか？ ※テーマとの関連 ※結果や結果につながる経過への着目</p> <p>【補助発問】 発問：3人だけの話でしょうか？「ガラスの心」を身近で見たり、感じたりしたことはありませんか？ ※間接経験の想起</p>	<p>【ペア交流⇒全体交流】</p> <p>①自分の現状（選択⇒表現を通して自分の考えを整理）への気付き</p> <p>②新たな視点の獲得（多様な感じ方をもとに自分の考えを整理）</p> <p>【問い返し】 役割取得：あなたが「としこ」の立場ならどうしますか？ ：あなたが「さとし」と同じチームメイトなら、どう思いますか？</p> <p>【問い返し】 限定：これだけですか？他にはないですか？3人にありますか？</p>
	<p>目指す姿②：道徳的価値についての考えを深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりする子供</p>	
展開後半・終末	<p>III 価値の一般化（生活化）を促す発問の設定</p> <p>【基本発問】 発問：『ガラスの心』を弱く（小さく）する方法はありませんか。また、〇〇な心（板書上で整理されたもの）を強く（大きく）する方法はありますか？ ※テーマとの関連、直接経験の想起</p> <p>【基本発問】 発問：自分がこれから強く（大きく）したい心はどれですか。その理由は何ですか。 ※直接経験の想起、実践意欲の喚起</p>	<p>【問い返し】 限定：『ガラスの心』をなくすことはできますか？ 具体例：そんな姿（『ガラスの心』を小さくしようとしている姿）を見たり、感じたりした経験がある人いますか？</p> <p>【書く活動】 ・自己のこれまでの生き方を見つめるための手段としての活用</p> <p>【全体交流】 ・記述の紹介</p>
	<p>目指す姿③：自己の生き方についての考えを深めていく子供</p>	
<p style="text-align: center;">III-(2)終末の工夫</p> <p>【テーマとの関連を図った詩の提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ガラスの心』という歌の歌詞の紹介（「何がいけない？何が悪い？もろいガラスの心、弱い自分を映す」等） ・『ガラスの心』は大人にもあること（人間理解）、本時で導き出した考えへの価値付け（実践意欲）等から選択 		

5 本時について

(1) 本時のねらい

3人（あきら、としこ、さとし）の出来事から、『ガラスの心』や「3人に必要な心」について考え交流することを通して、明るい心で生活していこうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ☑自己肯定感	[評価] 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○資料名『ガラスの心』の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割れる心？ ・弱い心？ ・透明な心？ ・危ない心？ <p>○『ガラスの心』を探しながら資料の3名の出来事について読み聞かせを聞く。</p>	<p>□資料の題名のみ提示し、どのような心か想像するよう伝える。また、状況に応じてペア交流を設定する。</p> <p>I, I-(1)</p> <p>□資料の3名の出来事から、『ガラスの心』を見つけるよう伝え、3枚バラバラになっている資料を配付する。</p> <p>I</p>	<p>▲考えることができない児童に対して、今日の授業を通して考えていくことができればよいことを伝える。</p>
<p>『ガラスの心』とはどんな心？</p>		
<p>○資料の概要を確認する。</p> <p>○现阶段で考えた『ガラスの心』について簡単に交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり弱い心のことじゃないかな？だって… ・割れて危ない心かな？3人とも… ・わがままな心だよ。3人とも… <p>○3人の中で共感できる人を選択する。また、その理由も考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきは、友達に責められて投げやりになっているから、少し気持ちはわかる。 ・としこは、別に悪いことをしていないから怒る気持ちはわかる。 ・さとと同じように、自分もゲームで腹が立ったことがあるので気持ちは少しわかる。 <p>○3人に共通する『ガラスの心』について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢できない心 ・イライラする心 ・人のせいにする心 ・暗い心 ・投げやりな心 ・怖い心 ・腹を立てる心 ・ムカつく心 etc. 	<p>□資料の概要を大まかに確認する。</p> <p>□『ガラスの心』とは、どのような心なのかを考えることができた児童数名に発言を促す。その際、問い返しを通して、その心で納得できるかどうか等を全体に確認する。</p> <p>発問：3人の中で「わかるなあ」と思う人はいますか？なぜですか？ II</p> <p>⇒共感的な立ち位置から3人の人物像に迫っていくことで、3人の立場から状況を整理していくと共に、『ガラスの心』について改めて考えていくことができるようにしていく。</p> <p>□状況に応じて、ペア交流を設定し、自分の現状での考えに気付いたり、多様な考え方に触れたりすることができるようにする。</p> <p>II-(1)</p> <p>□「あなたが○○の立場なら？」「周りの人なら」という役割取得を促す問い返しを行うことで、3人の人物の問題点に焦点化していく。(↓下記発問後も同様の問い返しを行う)</p> <p>II-(1)</p> <p>発問：3人中にある『ガラスの心』とはどのような心ですか？ II</p> <p>⇒改めて『ガラスの心』について問うことで、3人に不足している部分や問題点を目を向けていく。</p> <p>□「これだけですか？」「3人にありますか？」「このような心についてどう思いますか？」などの問い返しを行い、多様な視点から3人に不足している心に焦点化していく。</p> <p>II-(1)</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、出てきた考えの中から納得できるものを選択するよう伝える。</p>
<p>3人に必要な心はなんだろう？</p>		
<p>○3人に必要な心について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢する心 ・すぐに腹を立てない心 ・優しい心 ・ひねくれない心 ・あきらめない心 ・明るいい心 ・まっすぐな心 ・強い心 etc. <p>⇒明るい心があれば、いちいち腹を立てないと思う。</p> <p>⇒腹が立つ気持ちもわかるけど、強い心でおさえるべき。</p> <p>⇒優しい心があれば、友達に責められても前向きになれるかもしれない。</p> <p>⇒ひねくれずに正直に言っていれば、としこの気持ちを周りの人がわかってくれたはず。</p> <p>⇒周りの人だけでなく。3人とも嫌な気持ちにならない。</p> <p>⇒3人だけでは…見たことある…自分も… etc.</p>	<p>中心発問：3人にはどのような心が必要ですか？ II</p> <p>⇒分割していた資料の最後の場面を提示し、中心発問を行う。</p> <p>⇒3人の問題場面を解決するために必要な心について問うことで、結果や経過の変化に着目できるようにしていく。</p> <p>□自分の考えを整理する手段として書く活動を設定する。</p> <p>II-(1)</p> <p>□自分以外の視点に触れることで、新たな視点が創出されるよう必要に応じ、ペア交流を設定する。</p> <p>II-(1)</p> <p>□問い返しを通して、ガラスの心と対比的に必要な心を考えたり、3人の出来事の経過や結果にどのような変化が生じていたかを想像したりすることができるようにする。</p> <p>II-(1)</p> <p>□補助発問：3人だけの話でしょうか？ II</p> <p>⇒状況に応じて限定的な補助発問を行うことで、一般化(生活化)を促す。</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、出てきた考えの中から納得できるものを選択するよう伝える。</p> <p>△必要な心に序列がないかどうかや、統合できないかどうかを問い、列挙された心を整理できるようにしていく。</p>
<p>○ガラスの心を弱くする方法や、3人に必要だと考えた心を強くする方法を考え、その後自分がこれから強くしたい心について板書から選択したり、新たに考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラする心を弱くする方法は我慢する心を強くすることかな？ ・我慢する心を強くする方法は…落ち着いてゆっくり考えることが一番だと思う。 ・自分はまっすぐな心を強くしていきたい。 ・すぐに腹を立てずに我慢したことで、友達と喧嘩せず楽しく遊んだことがある。 <p>○教師が提示した詩等を聞き、本時を振り返る。</p>	<p>発問：『ガラスの心』を弱くする方法はありませんか？それとは逆に、○○な心を強くする方法はありませんか？ III</p> <p>発問：自分がこれから強くしたい心はどれですか？その理由は何ですか？ III</p> <p>⇒それぞれが考えるガラスの心、○○な心を整理するとともに、実践意欲の喚起や直接経験の想起を促していく。</p> <p>□自分の考えを整理する手段として書く活動を設定する。</p> <p>III-(1)</p> <p>□具体例を問う等の問い返しを通して、直接経験の想起を促したり、3人の出来事以外の場面を考えることで適応範囲を広げたりしていく。</p> <p>III-(1)</p> <p>□記述内容を紹介したり、交流する時間を設定したりする。</p> <p>□本時の児童の発言内容や様子を踏まえ、「詩の提示」「価値付け」「説話」等から選択して伝える。</p> <p>III-(2)</p> <p>☑『ガラスの心』や、3人に必要な心を全員の方で考え出すことができたことを称賞し、価値付ける。また、そこから自分が強くしたい心について考えることができたことに対しても価値付けし、今後の姿(将来に向けて)を期待していることを伝える。</p>	<p>資料上の3人に共通する『ガラスの心』の問題点や、3人に必要な心を考えることを通じて、明るい心で生活していくことの大切さに気付き、そのために自分が強くしていきたい心について考えたり、それに関する経験を想起したりしている。</p> <p>【発言・記述・観察】</p>

〈あせらのできごと〉

百十三、百十四、百十五、百十六――
「あっ、あきら君が引っかった。」

（しまった！）

みんなのしせんが、いつせいにぼくに集まった。

「あーあ、せっかく新記録が出そうだったのに。」

「ドンマイ、ドンマイ。また、ちょうせんだ。」

みんな何か言っているけど、聞こえない。

だから、大なわなんてやりたくなかったんだ。大な

わなんかできなくてかまわないのに、なんでみんな

なつまらないことにむちゅうになってるんだ。

（いいさ、いいさ、もうやめた！）

大なわなんて、せつたいやらないさ。



〈としこのできごと〉

ガツチャーン。

「あっ、としこさんがガラスをわった。」

「先生に言ってるよ。」

としこは、何も言えずにだまっていた。

ひどいわ！ わたしは、ただ、けんばんハーモニカ

を持って歩いていただけなのに。ろう下で遊んでいた

男の子が、ぶつかってきたんでしょ。それなのに、

なんでわたしのせいにするの。

（もういや！）

わたし、学校なんか来ない。



〈たけこのできごと〉

体育の時間、ポートボールの練習試合だった。試合が始まり、しばらくすると、
とつぜん、さとしがコートから出ていった。

（もう、やってらんないよ。）

「どうしたんだい、さとし君。」

おどろいて声をかける仲間に、

「なんで、ぼくにパスを回してくれないんだ。」

「だって、さつきは、てきにまわりをかこまれてい

たろう。」

「うそつけ。ぼくに、わざと回してくれないくせに。

こんなチームで、試合なんかやりたくないよ。」

さとしは、試合のとちゅうなのに、一人で地面に

すわりこんだ。



こんなできごと、みんなにはないかな。君たちは、

ちょっとしたこと、はらを立てたり、投げやりに

なったりしてないかい。

もちろん、人間だから、はらも立つ、自信がなく

なるときもある。

でも、ささいなことでも大事なことをすてていないかい。ガラスの心
じゃさびしいな。そんなとき、もう一度考えてみようよ。

何がひつようなのか？ そして、どんな心が大切なのか？